



Beans Phoenix



【JA福井県産大豆の復活とさらなる飛躍を目指して】

8月4日、福井を襲った大雨が、全国ニュースで取り上げられたことで、県外の大豆販売先(卸会社・実需者)からは心配する連絡を頂きました。管内の大豆の状況について、一部の圃場で一時的に冠水したが、概ね大丈夫であることを報告しました。今年も、大豆部会の大豆を待っている人達があります。一粒でも多く生産(出荷)して行きましょう。5日(午後)、天候が回復、蒸し暑い中、大豆部会の作見会を開催し調査した結果を報告します。

1. 大豆作見会調査内容(8月5日)

栽培区分	本数 (㎡)	草丈 (cm)	重量	
			(g/㎡)	(g/株)
普通培土	13.3	64.0	1,556	118
狭畦密植	20.0	78.4	2,500	124

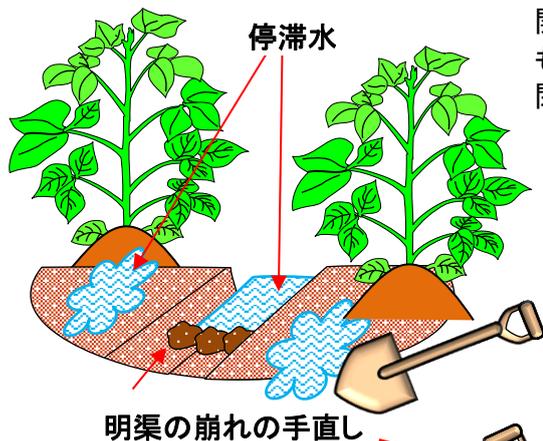
大豆の生育は、昨年より早く良好。害虫はウコンノメイガ(若齢幼虫)による葉巻きの状況は平年より少ない状況でした。一部の圃場で、葉焼け病の症状が見られました。



2. 里のほほえみ、高収量・高品質へのポイント

1. 湿害・乾燥害対策

8月4日の大雨により、大豆圃場内の停滞水が見られます。停滞水を早急に除去するため、排水溝の手直しを行いましょう。排水溝の手直しは、猛暑による乾燥時の畝間灌水を容易にします。



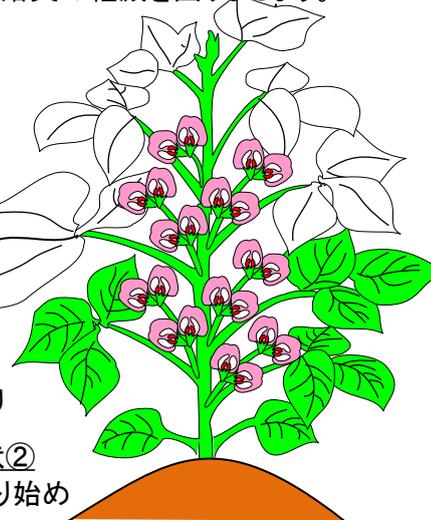
開花後(7月下旬~9月上旬)は着莢・莢伸長・子実肥大のために最も水分が必要な時期です。土壤水分を維持するために、暗渠栓を閉じ畝間かん水を実施して、落花・落莢の軽減を図りましょう。

【畝間かん水の目安】

- 無降雨期間が7日以上続き、溝面が白くなり始めたら実施しましょう。
- 日中、3割以上の葉が裏面を見せている状況での灌水効果は大きい。

★ 水不足の症状①
高温・乾燥による葉の裏返り

★ 水不足の症状②
溝面が白くなり始め



農業用水(パイプライン)

■ 速やかに排水しなかった場合や過度にかん水した場合は、逆に湿害を招き減収となる。

■ 排水溝・暗渠の栓の開閉。畝間かん水時は閉める→畝間かん水完了後は開けて排水→排水完了後は土壤水分を保つため栓を閉める。